

Koga Scenery Award 2020



第3回 古河市景観賞

Koga Scenery Award 2020

受賞作品

まちなみ建築部門

まちづくり活動部門



古河市

古河市景観形成事業

古河市では、平成23年1月に景観法に基づく景観行政団体となり、同年3月に古河市景観計画を作成、平成25年3月に古河市景観条例を制定し、市の良好な景観づくりを推進しています。

景観形成事業の一環として、古河市景観賞を開催しており、優れた景観の形成、啓発、普及に貢献していると認められる個人または団体に対し、表彰状・記念品を贈ります。

【第1回古河市景観賞】 平成28年度実施

【第2回古河市景観賞】 平成30年度実施

【第3回古河市景観賞】 令和2年度実施

古河市景観賞

【募集対象】 ● **まちなみ建築部門(古河景観まちなみ賞)**
市内にある建築物、工作物、その他の物件で、優れた景観のもの

● **まちづくり活動部門(古河景観ふるまい賞)**
おおむね2年以上継続している活動で、古河市景観に貢献している団体

【募集期間】 令和2年5月1日(金)～令和2年6月30日(火)

景観審議委員紹介

令和2年10月、古河市景観審議会にて審査(書類選考、現地調査)を行い、受賞者を決定いたしました。古河市景観審議会の委員は以下のとおりです。

【会長】



松本 昭

一般財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団専務理事(代表理事)
東京大学・法政大学非常勤講師
(株)市民未来まちづくりテラス 代表取締役

【委員】



加藤 誠洋

一般社団法人 茨城県建築士会
一級建築士事務所 のびひろアーキテクト



大山 早嗣

一般社団法人 茨城県建築士事務所協会
(株)大山都市建築設計 代表取締役



鷺尾 政市

合同会社 古河鍛冶町みらい蔵 代表社員



小山 幸子

株式会社 コヤマ 取締役社長
古河東ロータリークラブ 会員
NPO法人 ラフターヨガジャパン リーダー

まちなみ建築部門

Koga Scenery Award 2020

古河景観まちなみ賞(まちなみ建築部門)

古民家 サカカンカフェ



中田は江戸時代、利根川を挟んで中田宿、栗橋宿の合宿として栄えた町です。日光街道沿いにあり、今でも街道歩きの方が日光東照宮を目指して店の前を歩いていかれます。

酒井家は江戸時代より、旅籠、醤油蔵、特定郵便局、酒屋など商いを通して代々中田の地に根付いてきました。長男の名に「貫」の字をつけることから、昔から「酒貫」（サカカン）と呼ばれています。2年前空き家となり、この「家」を残すために古民家「サカカンカフェ」として再生しました。

店内は古い梁や社を残し、たんすの扉をテーブルにしたり、家具や漆器類を使用したり、古材でカウンターを作ったりしています。外観は古民家というより、白を基調としたモダンな雰囲気建物とし、店内とのギャップを感じていただくシンプルなデザインになっています。

醤油を醸造している時代に煙突として使っていたレンガがアクセントになっています。

講評

明治末年から昭和の初めにかけて河川改修のため移転した旧中田宿にあわせ現在地に移転し再生・活用した商家で、佇まいから往時の面影が伝わってきます。

現在地の雑多な景観との調和が難しかったと思われそうですが、工夫された復元手法は評価に値します。

一階部分の開放的なガラス戸越しに見える当時の材料や家具を再利用・再構築したインテリアから家業の変遷や歴史・文化を感じることができます。

古河景観まちなみ賞(まちなみ建築部門)

一の木の名に由来の古木と土蔵



当地は飯沼東岸台地にあり、古代からの遺跡が出土する地でもあり、土蔵は江戸時代年間に(天保)六代前当主の築と記され約180年間幾多の震災、風災を乗り越え、災害の都度守り続け現在の姿を保って居り、同敷地内に樹齢約500年と言われる県指定天然記念物(イチイガシ)の古木があり、土蔵と共に景をなして居る。当地の地名は恩名小字一ノ木となって居り、このイチイガシが古くより地名の由来となった証であり、現在も東仁連川の橋の名にもなって居り歴史的な意味も含め維持管理をして居ります。

尚下屋は機織部屋として利用されて居た当時の生活がしのばれる。

講評

江戸後期の建物のみでなく、古い樹木があることで、周辺に溶け込む景観、三和地区らしい地域景観を形成しています。門に隣接した蔵に付属する“漆小屋”は、形式的に見ても珍しく景観上のアクセントにもなっています。地域の景観として、長年、維持管理されている点は高く評価できます。

今後も、景観の形成に寄与していただきたいと思います。

古河景観まちなみ賞(まちなみ建築部門)

製茶問屋 大島清吉商店 本店



当物件は、水戸城下と瀬戸井を結び筑波山神社への巡礼道でもあった歴史ある「瀬戸井街道」沿いに位置し、大正初期の創業より100年以上地元さしま茶を始め日本各地の銘茶を一貫して扱い、地元住民に親しまれている老舗の製茶問屋である。

今回、既存建物の撤去を機に街角の「たまりの場」となるべく改修・増築を伴うリニューアルを企画し、『アウトドアにも日本茶を』のテーマの下新たなユーザーを惹きつけ、街道を行き交う人々が自然と敷地内に引き込まれるような魅力的なイベント広場の空間づくりを行った。

外観に関しては、街道や店舗の歴史、隣地に建つ国登録文化財である「亀屋商事(旧飯島家住宅)本館」との調和を考え「茶箱」や「蔵」のイメージをモチーフにして、自然木、天然石、鉄などをふんだんに使用し歴史的な香りを出しつつも、無駄を削ぎ落としたシンプルな現代的形体とし、時代を超えて世代間を繋ぐ場となる建築を目指している。

講評

製茶問屋の象徴的なアイテムをモチーフにモダンなデザインでまとめていることを評価します。

広場としての活用もできる駐車場と一体的なスペースづくりや街道や店舗デザインにおける歴史的解析、抑揚の効いた素材選定など高く評価できます。欲を言えば東側に建つ近代建築や、既存建物と増築の調和に工夫があると良かったと思います。

古河景観まちなみ賞(まちなみ建築部門)

酒井蔵・富岡蔵



平成20年度より取り組まれた古河駅西口の鍛冶町通りの拡幅・電線地中化工事に伴い古い商家建築が多く取り壊され、江戸期から昭和期まで栄えた商家の街並みが失われそうになった。そのなかで酒井氏より保存を条件に土地・建物が古河市に寄贈された。また取り壊す予定の富岡蔵も富岡氏が経費を負担して現在地まで2日ばかりで路上70mを曳家し古河市に寄贈された。酒井家は肥料問屋時代の大正2年築の石倉と座敷蔵が保存された。富岡家は木炭卸業時代の明治39年着工の店蔵が保存された。

その後、古河市により、酒井石倉・富岡店蔵の耐震修復や富岡店蔵前の古いポスト・松の木も昔の景観を参考に修景され、向かいの今城蔵とともに昔の面影がよみがえり、市民・他県からの来訪者に喜ばれている。この間、建物内や中庭で展示会・演劇・講演会・討論会・コンサート・マルシェが単発で開催されたが、今後は空調機を設置して日常的な活用が望まれる。

講評

酒井蔵と富岡蔵の間に残る中庭が、まちとのつながりを生み出す領域として豊かな空間を演出しています。

商家のまちなみを後世に残すために、所有者からの寄附と市による耐震補強や復元修理が行われたうえで、新たな活用が行われていることは高く評価できます。特に、富岡蔵は道路拡幅によって消滅の可能性があるあった建物を曳家して、現在地に移し保存した結果、このエリアのランドマークとなっています。

今後、向かいの今城蔵と連携した蔵の利活用を期待します。

古河景観まちなみ賞(まちなみ建築部門)

古河城お茶屋口跡に建つ陽明堂



退職後に商売を始めようと考えていたので、建物はどんなものが良いか検討していたところ、日本家屋を得意とする設計家がいると紹介されたので、会ってこちらの希望を伝えたと、船柁(せがい)造りでやろうと説明を受けたので、話をよく聞いて納得のうえで同意した。

お茶屋口になるので、普通の四角い建物よりは良いかと思い決めました。深く考えたわけではないが、「ここにこんな建物を建ててくれてありがたい」ということも聞いたので、これで良かったのかなと思っています。

古河城お茶屋口は、古河藩主土井利勝が日光参詣する將軍や格式の高い大名をもてなすために、茶屋を置いたことに始まるといわれています。また、建物の北側の通りは將軍や格式の高い大名が古河城に向かう際に使用されていたといわれています。

講評

旧街道沿いのまちなみを意識した良質な建物を長年に渡り維持されている点を高く評価します。建築主の想いが設計者によって随所に表現されており、両者の建物への愛着を外観からも感じます。

今後、より一層、建物のメンテナンスや屋外広告物等のサインを景観形成の観点から管理していただければと思います。

古河景観まちなみ賞(まちなみ建築部門)

お茶の丸太園



江戸時代から続く製茶園の「丸太園」は、太郎兵衛どんと呼ばれ、代々この地域の顔役を務めた「千町地主」のお宅です。古河市東諸川の通り沿いに面し、長く高い板塀が続き大きな漆喰の長屋門と穀物蔵、文庫蔵そして築150年のどっしりと構えた母屋が、茶を買いに来る客を出迎えてくれます。

令和元年初頭から末まで丸太園の蔵群の壁修復を行いました。昔ながらの伝統的な工法で、土壁を塗り漆喰で仕上げ、建築当初の輝く白壁がよみがえりました。蔵の明かり扉に施した「漆喰黒磨」は漆喰のウルシを塗ったような鏡面仕上げで一見の価値があります。土壁は、耐力壁としての役割の他に、調湿と断熱効果に優れ、かつ、自然の柔らかい表情も見せます。木も同じように、自然の仕上げ材で、また、構造材でもありその組み合わせで建屋を造ることは理想的で、日本の建築はこの組み合わせで造られてきました。このような明治初頭の重厚な木造建築群が、十六代・太郎兵衛の号令の下、地元の大工、左官、瓦職人の伝承された手業で修復され整えられています。

丸太園は、さしま茶の製茶業のほかグリーン・ツーリズム体験、ご当地の産物を使った六次産業の加工など幅広く活動するユニークなお茶農家さんです。

講評

建築当初の姿を大きく変えず、代々、維持管理されていることや修理に関わる職人の技術を高く評価します。特に、景観上キーポイントになる長屋門板塀をはじめ、この地域特有の直屋造りとした規模の大きな母屋・土蔵などが庭を中心に配される屋敷構えは見事です。

現在、店舗や工房として広く開放されている様子なので、今後は、建物の建築的価値を多くの人に知ってもらえるよう一層の努力を期待しております。

まちづくり活動部門

Koga Scenery Award 2020

古河景観ふるまい賞(まちづくり活動部門)

恩名下坪保全会



当地は南総土地改良区域内に位置し、田畑に育った作物を農家の家屋、その周辺の水辺や里山が一体となって美しい田園風景を形成しています。近年地域住民の高齢化、少子化が急激に進み従来より持って居る多面的な機能を維持保全するコミュニティの活性化を向上する為、当会を発足しました。

活動内容は遊休農地の保全管理、農道の整備、排水路のドロ上げ、草刈り、地域の美化運動の一環としてのゴミ拾い、河川の水質検査、ポイ捨ての激しい県道沿遊休地を利用し50mにわたり花畑を造り、植栽、除草を定期的に行って居ります。

植栽は年2回、除草は3月より11月まで月1回日時を決め多数の会員の参加により実施し、4年目に入って居ります。共同作業をする事によりコミュニケーションが活発になり、この運動が確実に地域の活性化に寄与していると確信して居ります。

講評

普段目にして居る「美しい風景」がたくさんの人の手によって達成されているということ。そうした地道な活動はとても大事な事だと思います。市民参加活動でコミュニケーションが活発になってきている点が高く評価できます。

活動開始時期から4年目とのこと、今後の世代に引き継がれる活動内容となることを期待します。

第1回 古河市景観賞受賞作品

募集期間 平成28年9月1日~10月31日

まちなみ建築部門



■ 古河市立古河第一小学校 赤門

赤門は、赤レンガを使用した建築物として大変価値のあるもので、歴史ある古河の教育を象徴するものであり、長年に渡り児童や地域住民から親しまれている。現在地に古河尋常小学校が明治37年10月に移転された際、建築され、以降、補修をしながら当時の姿を保存してきた。平成28年3月には門扉が復元されている。



■ 大久保邸 板塀

塀の材料は、栗の板で、表面には亀甲名栗(きっこうなぐり)という刃先が弧型の刃物で一つ一つの表面を加工する手法を使っている。最終的に六角形が重なったようにも見えるこの形の風合いは、小京都に認定されている古河市にふさわしい景観と言える。



第1回古河市景観賞表彰式

平成29年5月22日、第1回古河市景観賞表彰式が総和庁舎(本庁)特別会議室にて行われました。

まちづくり活動部門



■ クリーンクラブ

平成18年より、違反屋外広告物の撤去作業を行っている。



■ 古河史楽会

古河は城主大名の城下町において日本で唯一城跡や模擬天守すらない「城なき城下町」である。また、本丸跡には木製の碑が一本立つのみで説明板すらない。そんな中、古河史楽会では国交省や市役所と連携を取り、古河城の図面展示などを通して知名度上昇、市民の歴史意識向上と愛郷心育成を目的とした活動などを行っている。



■ 古河を美しくする会

古河の産土神である雀神社について、参拝する皆さんに清々しい思いと心豊かになっていただきたい、という願いから境内などを掃除している。

第2回 古河市景観賞受賞作品

募集期間 平成30年5月1日~7月2日

まちなみ建築部門



■ レストラン SUNROSE

昭和8年に建築された日本家屋をレストランとしてリノベーションし、当時の日本建築技術を駆使した良さと現在では手に入らない建築資材、建具を充分に残したデザインとなっており、旧日光街道繁栄の歴史を物語っている。また、敷地内には樹齢100年を超える樹木が2本あり、古河市内の中にありながら店前から観る風景は緑溢れる別世界の様である。



■ GALLERY&CAFE HYGGE(ミトベ写真館)

ミトベ写真館創業者の水戸部正三郎が昭和初期に古河市紺屋町に開業して以来、長い間営業してきた場所から西に20メートルの地に移転した。2016年2月に新たにGALLERY&CAFE HYGGE ミトベ写真館としてオープン、営業している。HYGGE(ヒュッゲ)とは、デンマーク語で、人と人とのふれあいや生まれる、暖かな居心地の良い雰囲気という意味の言葉である。設計者は、古河歴史博物館等を手掛けた故古田桂二氏と同じ設計事務所である。



■ 古河鍛冶町 みらい蔵

元塩問屋として使用されてきた、歴史ある木造削りの建物を所有者である今城敏和氏から借用し、古河市の財産として活用すべく「合同会社古河鍛冶町みらい蔵」を立ち上げた。蔵を活用したまちなか再生事業による企画・運営を目指し、歴史の街「古河」にふさわしい、白の漆喰壁を基調に重厚な建物として保存された。

現在、3店舗が入り、各々個性ある料理を提供し連日にぎわっている。



■ 大橋醤油店 諸味蔵

諸味蔵2棟(571.38㎡、419.01㎡)の中で、蔵と木桶に棲みついている微生物によって諸味を自然に発酵熟成させる天然醸造の醤油を造っている。阪神淡路大震災後、曳家をし、補修をした際、一部の七尺木桶(高さ・直径:210cm)を解体した。その時に弘化二年という刻印を見つけ、木桶は設置する建物の中で組み立てるので、諸味蔵は弘化二年以前に建てられたと推測する。土台と柱を固定せずに瓦の重みも利用することで、たわんだり傾いたりしながら地震の揺れを建物全体で受ける工法によって建てられている。



■ 株式会社めた屋 耐甘露煮店

古河市内には200棟とも250棟とも数える様々な姿・形をした数多くの蔵がある。

その蔵の宿場町に似合うものとして、老舗めた屋に蔵造り店(たな)を合せ、城下町古河にイメージすべく蔵を建設した。旧日光街道 古河城御茶屋口門址を曲り歴史博物館に向う文化の漂う街並に建っている。

第2回 古河市景観賞受賞作品

募集期間 平成30年5月1日～7月2日

まちづくり活動部門



■ 諸川谷貝線沿道 八俣幸島土地 改良区内清掃活動

八俣幸島土地改良区の水田沿いの諸川谷貝線にて、水田及び農道の除草作業とともに、沿道に落ちているごみも拾っている。ごみや除草を放置すると病害虫の発生の要因になるので、行政区内で自主的に年2回(6月、9月)と決め実施している。活動期間は約30年間になる。



■ シニアボランティアグループ

古河駅を挟んで南北高架線に沿って四季の径(みち)がある。皆さんの憩いの散歩道として多くの人々が通る一角に、堆肥状態のごみの山があったが、行政に話をし、きれいに片付けた。

不法投棄・犬のフンの立て看板作成、植込みの中の空きカン、空ビン拾いや、街路灯の電球切れの連絡等、多岐に渡り6年間継続して活動している団体である。



第2回古河市景観賞表彰式

平成31年2月10日、第2回古河市景観賞表彰式はなももプラザにて行われました。



■ 国道354道路 大堤 美化活動

国道354道路は交通量が多く、ゴミのポイ捨てや風などでゴミが飛んできて困っていたが、平成15年ごろから除草作業と花(ルピナス・アジサイ)を咲かせるようにした。その結果、ポイ捨てゴミも減り、美観が維持され、皆様方に大変喜んでいただいている。ルピナスの花が咲くと遠方の方が写真を撮りに来る。

- 【開花時期】
1. ルピナス 4月20日～5月下旬
 2. アジサイ 5月下旬～6月下旬
 3. キク 11月下旬～12月下旬



■ 一般社団法人 茨城県古民家再生協会 古民家 山川邸における古河農泊プロジェクト

(一社)茨城県古民家再生協会は、2012年に設立した。地域に残る伝統的木造建築「古民家」の現地調査をはじめ、耐震診断などの調査活動により古材(ござい)を活かした修復再生に取り組んでいる。価値ある古民家が空き家となり放置される前に、保存、管理するだけでなく、人々が集うコミュニティの場としても再生することで、地域の景観を観光の面から見ても魅力ある存在に育てる活動を行っている。

現在は古河市恩名にある築140年を超える山川邸で農業体験しながら古民家に宿泊する農泊プロジェクトをスタートした。

表彰式

Koga
Scenery Award

古河の景観を 考えるつどい

～第3回 古河市景観賞表彰式～

2021
2.13 SAT

地域交流センター(はなももプラザ)
古河市横山町1-2-20 TEL.0280(21)1255



駐車場には限りがございますので、公共機関のご利用や乗り合いのご来場をお願いします。

開 場: 12:30～12:50

開 会: 13:00 主催者あいさつ 古河市長 針谷 力
表彰式: 13:05 受賞作品紹介・表彰状授与
つどい: 14:15 景観を考えるつどい
市長・審議委員・受賞者の座談会
閉 会: 15:15 閉会のことば

※新型コロナウイルス感染症対策のため、参加者は受賞関係者のみとなっております。

主催 / 古河市 お問い合わせ / 古河市 都市建設部 都市計画課 〒306-0198 茨城県古河市仁連2065番地 TEL:0280-76-1511

Think about the scenery of KOGA